

# 北秋田市初公開

平成26年度 第1回企画展

# 阿仁鉱山の絵巻

(秋田大学鉱業博物館所蔵)



『阿仁鉱山 銅山働方之図』

期 間

平成26年 4月26日(土)～5月25日(日)

展示会場

阿仁郷土文化保存伝承館

開館時間／9:00～17:00 (月曜休館)

期間中の入館料／大人 300円 高校・大学生 200円 小・中学生 無料

主催 阿仁郷土文化保存伝承館  
秋田県北秋田市阿仁銀山下新町41-23  
TEL 0186-82-3658

共催 秋田大学鉱業博物館  
秋田大学北秋田分校  
秋田大学COC事務局

後援 北秋田市  
北秋田市教育委員会

平成26年度  
第1回  
企画展

# 8mに及ぶ 「阿仁鉱山 銅山働方之図」の 全編を公開！

開催期間 4月26日(土)～5月25日(日)

開館時間 9:00～17:00(月曜休館)

阿仁鉱山の粗銅から加護山製錬所の精銅と銀へ

## 阿仁の銅と大坂銅吹屋(どうふきや)

江戸幕府は、重要な輸出品であった銅を確保するため、全国の鉱山で生産された粗銅を大坂に集め、大坂銅吹屋という職人組合で、銅を精錬し管理していました。また、大坂銅吹屋の泉屋(後の住友財閥)は、粗銅の中から銀を抽出する方法(南蛮吹き)を開発し、多くの利益を得ていました。

## 念願だった秋田藩での銅吹所の建設

秋田藩では、阿仁鉱山の粗銅には、多くの銀が含まれていることが分かっていましたが、幕府の許可が得られず、銅吹所(精錬所)を建設できずにいました。

1773年に秋田藩は、銅と銀の生産量を増加させたい田沼政権から、念願の「銀絞り(南蛮吹き)」の許可を得ることができました。秋田藩では、阿仁鉱山を開発するなど藩との関わりが深かった、大坂銅吹屋の大坂屋に協力を依頼し、翌1774年に加護山(ニツ井)に吹分処(精錬所)を建設しました。操業は、すべて大坂屋による請負でしたが、1810年には藩の直営にしました。こののち、加護山製錬所では、貨幣の製造(密造)が行われるようになります。

## 阿仁鉱山での採鉱から粗銅の生産まで



鉱石の粉細とゆり鉢による選別  
(「阿仁鉱山銅山働方之図」、鉱業博物館蔵)

阿仁の鉱山には、6つの鉱山(坑口)があり、ここで銅鉱が採掘されました。これを細かく破碎し、水を入れた鉢の中で石と鉱物に選り分けました。選別した黄銅鉱( $\text{CuFeS}_2$ )は、長期間焼いて硫黄分を取り除いたのち、溶鉱炉で加熱・溶解して、銅の部分(鉞、かわ)と鉄とシリカの化合物(からみ、スラグ)に分けます。この鉞だけを集め、再び溶かして固めたものを粗銅(純度90%以上)といい、ここまでが、阿仁鉱山で行われた仕事でした。